

CROSS-LANGUAGE PERCEPTION OF WORD-FINAL STOPS: COMPARISON OF CANTONESE, JAPANESE, KOREAN AND VIETNAMESE LISTENERS

語末閉鎖子音の多言語間知覚：広東語、日本語、韓国語およびベトナム語話者の比較

Kimiko Tsukada¹ Thu T. A. Nguyen² Rungpat Roengpitya³ Shunichi Ishihara⁴

¹University of Oregon ²The University of Queensland ³Mahidol University
⁴The Australian National University

塚田公子¹ トゥー・ニューエン² ルンパット・ローエンピトヤ³ 石原俊一⁴

¹オレゴン大学 ²クイーンズランド大学 ³マイドル大学 ⁴オーストラリア国立大学
ktsukada@uoregon.edu thunguyen@uq.edu.au rungpat@gmail.com shunichi.ishihara@anu.edu.au

要旨

本研究では広東語、日本語、韓国語、ベトナム語の母語話者による英語およびタイ語の語末に起こる無声閉鎖音対立 (/p/-/t/, /p/-/k/, /t/-/k/) の識別を調査した。語末閉鎖音は被験者の母語に応じて音声的に著しく異なった現れ方をする。

日本語では、語末に閉鎖子音は起こらないが、日本人被験者は英語（タイ語においては別）の閉鎖子音対立を正確に識別することができた。これは、成人になってからでも、母語にない外国語の音声対立の学習が可能であることを示すものである。広東語、韓国語、ベトナム語話者はそれぞれの母語で解放のない語末閉鎖子音が起こるにもかかわらず、タイ語の刺激音識別の際、グループ間の違いが見られた。

本研究は多言語間の音声知覚における母語の役割をよりよく理解するためには、複数の異なった母語話者のグループを体系的に比較することの重要性を強調するものである。